

1. 学校名 岩手県 洋野町立帯島小学校
2. 活動テーマ名 帯島わくわく探検隊
3. 実践の概要・ねらい

◇概要

本校は、太平洋側の隆起による海成段丘（大野段丘）の上に立つ中山間地域にある。海岸線までは30kmほどあり、一見、海洋に親しみ生活しているとは言い難い地域である。しかしながら地域の中心的な産業（農・畜産業）は海洋の影響により形成された段丘と太平洋から吹き上げる山背を利用して拡大してきた経緯がある。

従来、負の影響が大きく取り上げられる山背を最大限利用し、さらに段丘地形を見事に活用し、発展してきたこの地域の知恵と志の高さに目を向け、ふるさとの伝統や文化、自然を愛する児童を育てると共に産業と自然、社会との関わりを探究活動・体験活動を通して多面的・総合的に物事を考える活動である。

◇ねらい

地球の成り立ちに始まる海の影響により創成された洋野町の大地に生き、ともに歩んできた洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4つの観点で目を向け、自分たちの生まれ育ってきた地域に喜びと誇りを感じ、たくましく生き抜くことができる子どもを育てる。

4. 実践計画

(1) 全学年共通テーマ **「緑の高原に生きる」**

(2) 各学年の概要

《第3学年》	《第4学年》
【帯島の名人調査隊】	【帯島モーモー研究】
帯島の様子を調べて、様々な名人がいることを知り、名人の工夫などを聞く活動を通して、地域への愛着をもつ。	地域の中心産業となっている酪農の条件が、海成段丘による大地、山背による冷涼な気候と一致することに目を向け国内でも有数の産地となるまでの地域の人々の努力を探る。
【野菜博士になろう】	
地域の第一次産業（野菜作り）の様子について調べ、なかなか成功しなかった野菜作りは山背による冷涼な気候を活かして成功したことを学び、地域の人々の思いを探る。	
全学年共通【伝え 引き継ぐもの】	
地域の方のえんぷりに対する思いを知りえんぷりを実際に舞う。	

《第5学年》	《第6学年》
【お米からのおくりもの】	【緑の高原に生きる】
稲作に適さない地域で稲作を行うための工夫や努力を田植え・稲刈り体験から学んだり、理科や社会科との関連で帯島の自然環境の特徴を調べたりすることで、帯島の農業の現状やこれからを考え、自分たちのこれからの生き方に生かそうとする態度を育てる。	これまでの3年間の学びを振り返りながら、地域の一員として共に生きる人々の生き方や考え方を知ることを通して、地域の中で人とかわりながら自分らしく生きることの大切さやすばらしさに気づき、自分らしさを踏まえた「これからの自分」の生き方を考え、実践していこうとする。
【自然とふれ合おう】	
県北青少年での活動を通して自然の中で活動することの楽しさや素晴らしさに気づき、自然を守るために自分たちができることを考え、実践することができる。人々の願いをもとに、地場産業のよさを知る。	
全学年共通【伝え 引き継ぐもの】	
地域の方の方からえんぷりの歴史やえんぷりへの思いを聞いたり、実際に踊ったりして、地域の伝統の良さを感じるとともに、引き継いでいこうとする意欲を高める。	地域の方のえんぷりに対する思いや願い、えんぷり発祥の延喜などを調べ、えんぷりの踊りの意味を考えながら、えんぷりを継承したり後輩に伝えたりする。

(3) 活動計画

月	内容
5月	田植え体験（5年）
6月	高家川源流探検・大野ダム見学・森林愛護少年団活動開始（4～6年）
6月	酪農・野菜作り・工房見学・地域のゲストティーチャーによる授業開始
8月	海洋サミットへの参加（海はともだち）（6年）
10月	稲刈り体験（5年生）
11月 1月	地域へのえんぶり披露（1～6年）
2月	わくわく発表会による地域・保護者への学習のまとめ発表

(4) 教科等の関連

道徳	国語	社会	算数
<ul style="list-style-type: none"> 郷土を愛する 自然環境を大切にすること 助け合い支えあう心 生命を尊重する心 外国の人々や文化を理解しようとし、自国の文化を尊重する心 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを相手に伝える力 目的や意図に応じて分かりやすく表現する力 自分の考えについて筋道を立てて書く力 言語についての知識 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象に関心をもち調べようとする態度 統計・年表・グラフなどの資料を活用する力 調べたことを考察する力 	<ul style="list-style-type: none"> 数量関係を正しくとらえる力 長さ・重さ・かさなどを正しく測定する力 図や表、グラフに表現する力 筋道を立てて考える力
理科	特別活動	その他	
<ul style="list-style-type: none"> 自然事象に関心をもち、進んで調べようとする態度 見通しをもって観察実験をする力 筋道を立てて考え課題を解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動の仕方 集団を高めていこうとする意欲と実践的な態度 自分の考えや意見の発表の場 	音楽：豊かな情操 図工：創造する喜び、表現の技能 家庭科：生活を高めようとする意欲 体育：健康安全に関する知識	

(6) 実践の評価について

◇評価する上での基本的考え方

各教科・領域で「水・海・地球」（＝身の回りの出来事）と関連させて取り組み、実生活を意識し、より主体的に「海に生き、海とともに歩む地域に喜びと誇りをもち郷土の豊かな自然や地域の特色を学んでいるのか」ということを基本とする。

◇評価方法

観察・制作物（レポート・ポスター等）・パフォーマンス（発表）・自己、他者評価

◇評価の視点

(1)海に親しむ	町内に広がる豊かな海や川、山での体験学習を行い豊かな心と郷土を愛する心をはぐくむ。 (ふるさとで過ごす喜び)
(2)海を知る	身近な郷土について「水」を視点に見直し、発見したことをもとに郷土の特色を学び、郷土の発展に努める。 (地域の特色を学ぶ)
(3)海を守る	「森林愛護少年団」の活動や「森林学習」の目的を明らかにし、「海や水」「産業」とのつながりを意識することで、強度を大切にすることををはぐくむ。 (ふるさとを愛する心)
(4)海を利用する	先人たちは、どのようにして海の恵みを享受してきたのか、また、地域に根ざした産業を学び、地域社会に尽くす人材を育成する。 (地域社会に尽くす)

5. 今年度の実践

(1) 計画からの追加・変更点

計画からの大きな追加・変更点なし。

※講師の派遣について、年度初めに誰をお願いするのか確定することができなかったが、子ども達の実態に応じて適切に判断し、講師を招いて調査・探求・体験活動を行った。

(2) 実践の成果

《海洋教育全体を通しての成果》

- ①海とは無縁に見える中山間地がその成り立ちまでさかのぼることにより海の影響を大いに受けていることが理解できた。
- ②地域の産業はその地域の地形・気候の特色を生かしたものでありその影響は海からによるが大きいことに気づくことができた。
- ③地域の先人達はこの地の地形・気候と上手に向き合い、生かし共存する知恵を持っていたことを実感することができた。
- ④活動を通して地域をへの郷土愛を育むことができた。

《学年ごとの成果》

3年生	<p>「帯島の名人調査隊」では、地域にたくさんの野菜作り名人がいることを知り、「野菜博士になろう」では、なかなか成功しなかった野菜作りが山背による冷涼な気候により成功したことを学んだ。これらの活動を通して、地域の人々の思いを探ることができた。</p>	<p>稲作に適さない帯島地区で、稲作に従事する方の工夫や努力を知るために田植えや稲刈り体験をしたり、稲作に従事している方の思いや願いを聞いたりすることで、帯島地区のこれからの農業について考えを深めることができた。また、社会や理科との関連で、帯島地区の自然環境やについて理解を深めることができた。</p>	
	<p>「帯島モーモー研究」で地域の中心産業となっている酪農の条件が、海成段丘による大地、山背による冷涼な気候と一致することに目を向け国内でも有数の産地となるまでの地域の人々の努力を探ることができた。なぜ帯島地区で酪農が盛んなのか、稲作や畑作に厳しい気候条件を逆手にとった知恵、酪農家の昔と今の違い、おおのミルク工場の販売戦略などについてまとめることができた。また、地域の人々の努力や熱い思いに気づき、学習のまとめとして感想発表を述べることもできた。</p>		
4年生	 	<p>年間を通して、今住んでいる「緑の高原」は海が関係した台地になっていること、そして、その地形や気候を生かしたり、克服したりしている人たちがいることを体験的活動や探求的活動を通して理解を深めることができた。</p> <p>その上で子ども達は、「こんな地域であってほしい!」「こんな地域にしたい!」といった未来の帯島地域について考え、その考えや地域に対する思いについて気づかせてくれた地域の方をお呼びして、学習してきた成果を発表で表現できた。</p>	 

(3) 次年度への課題

①年間行事との関連性をより具体的に行う（カリキュラムマネジメントの視点）

海洋教育の学習を進める中で学校行事や学校生活との兼ね合い具体的に見通した年間計画を立て、子ども達の学習の進度に合う体験活動や探究活動を設定しやすくするための手立てが必要である。

②海の影響による地形・気候の特色を生かした地域産業であることを気づかせるための体験活動の充実

地域の方を講師として地域産業の説明を受ける機会を各学年行うことができたが、実際どのような苦労をしているかの実感が薄いように感じる。児童の探究意欲を高めるために実感を伴う体験活動について考えていく必要がある。

③追求過程において、知識・科学的根拠・数値を総合的に使った学習展開をするための工夫

調べたことや聞いたことについて既習事項と関連させることや科学的根拠と結びつけること、数値上の根拠を示すことに関して苦手意識を持つ子が多く見られた、資料の与え方等学習展開に不封を取り入れていく必要がある。

④地域の特性を明確化するために他県、他市町村との比較検討の充実

自分たちの地域に目を向けることは十分にできている。他の県や市町村の気候や地形の特徴、産業の違いにも目を向け、自分の周りの地域の良さや違いを理解し、多面的・多角的に地域の特色を考えられるようにする必要がある。

6. 主な連携機関及び内容

- ・大野自然を守る会
- ・えんぶり保存会
- ・JA新しいわて大野支所二ツ屋事業所
- ・おおのミルク工房
- ・JA全農いわて大野コールドセンター
- ・その他、地域の産業に関わる方（農業・工業・酪農）

3年生「くらし、産業（農業）との関係を探る海洋教育の推進」

【実践のねらい】

- ・ 地域の様子を調べることで帯島には様々な名人がいることを知り、名人の仕事（活動）の工夫などを聞く活動を通して、地域への愛着を持てるようにする。
- ・ 地域の第一次産業（野菜作り）の様子について調べ、なかなか成功しなかった野菜作りは山背による冷涼な気候を活かして成功したことを学び、地域の人々の思いを探ろうとする。

- 時数 5～2月 71時間（総合的な学習の時間）
- 関連 国語・社会科・理科
- 目標

協力機関等

- ・ 地域に住む名人；インタビュー調査
- ・ J A新しいわて大野支所二ツ屋事業所；施設見学

	①学習方法に関わるもの	②自分自身に関わるもの	③他者や社会との関わるもの
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で調べることのできる課題を見つけることができる。 ○いろいろな学び方を体験し、資料を集めることができる。 ○自分の考えや感想、努力したことをまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の仕方でも追究し、最後まで工夫してやり遂げることができる。 ○自分のよさや進歩を見つけ、他の人とのかかわりで考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな考え方にふれることができる。 ○友だちと協力して調べたり、話し合ったり、まとめたりすることができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	【帯島の名人調査隊】（30） ①オリエンテーション（1）総合 ・「総合的な学習の時間」とはどんな学習なのかを知る ②帯島という地域について考える（2）総合 ・帯島とはどんな地域なのか ・帯島にはどんな名人がいるのか					【野菜博士になろう】（36） ①帯島でどんな野菜が生産されているのかを考える（1）総合 ②J A見学に出かける（8）総合（1）国語 ・計画を立てる ・見学する ・見学活動を振り返る ・お礼の手紙を書く ③帯島で多く生産されている野菜の様々について調べる（9）総合（1）理科 ・計画を立てる ・植物の一生、からだのつくりと比較する ・調べる ・発表原稿を考える ・分担して模造紙や画用紙に書きまとめる ・発表練習をする						
探求的な活動	③名人にインタビューする（8）総合（1）国語（1）社会科 ・計画を立てる ・インタビューをする ・インタビュー活動を振り返る ・お礼の手紙を書く ④インタビューしたことをまとめる（12）総合 ・インタビューの内容を振り返り確認する ・発表原稿を考える ・分担して模造紙に書きまとめる ・発表練習をする					【伝え引き継ぐもの】（5） ①伝承活動（5） ・保存会の方々や上学年から踊り方や込められた思いや願いについて教えてもらう ・教えを活かしてえんぶりを練習する ・教えを活かしてえんぶりを踊る ②伝承活動 学習発表会 ・教えを生かしてえんぶりを踊る						
表現活動	⑤インタビューして分かったことを伝え合う（3）総合 ・発表会を開き、伝え合い、聞き合う ⑥活動を振り返る（2）総合 ・1学期の活動を振り返り、学んだことを確かめ合う					④中間発表会を開く（10）総合 ・発表の仕方について、意見を交わし合う ・改善点を確かめ、まとめ直しをする ⑤わくわく発表会を開く（4）総合 ・伝え合い、聞き合い、意見を交わし合う ・発表会を振り返る ⑥活動を振り返る（2）総合 ・2・3学期の活動を振り返り、学んだことを確かめ合う						

4年生「産業（酪農）の起こり、気候との関係を探る海洋教育の推進」

【実践のねらい】

牛や地域の畜産（酪農）農家について学ぶことを通して、畜産（酪農）に携わる人々の思いや願いを知ったり、調べて分かったことをまとめたりすることができる。

○時数 5～2月 70時間（総合的な学習の時間）

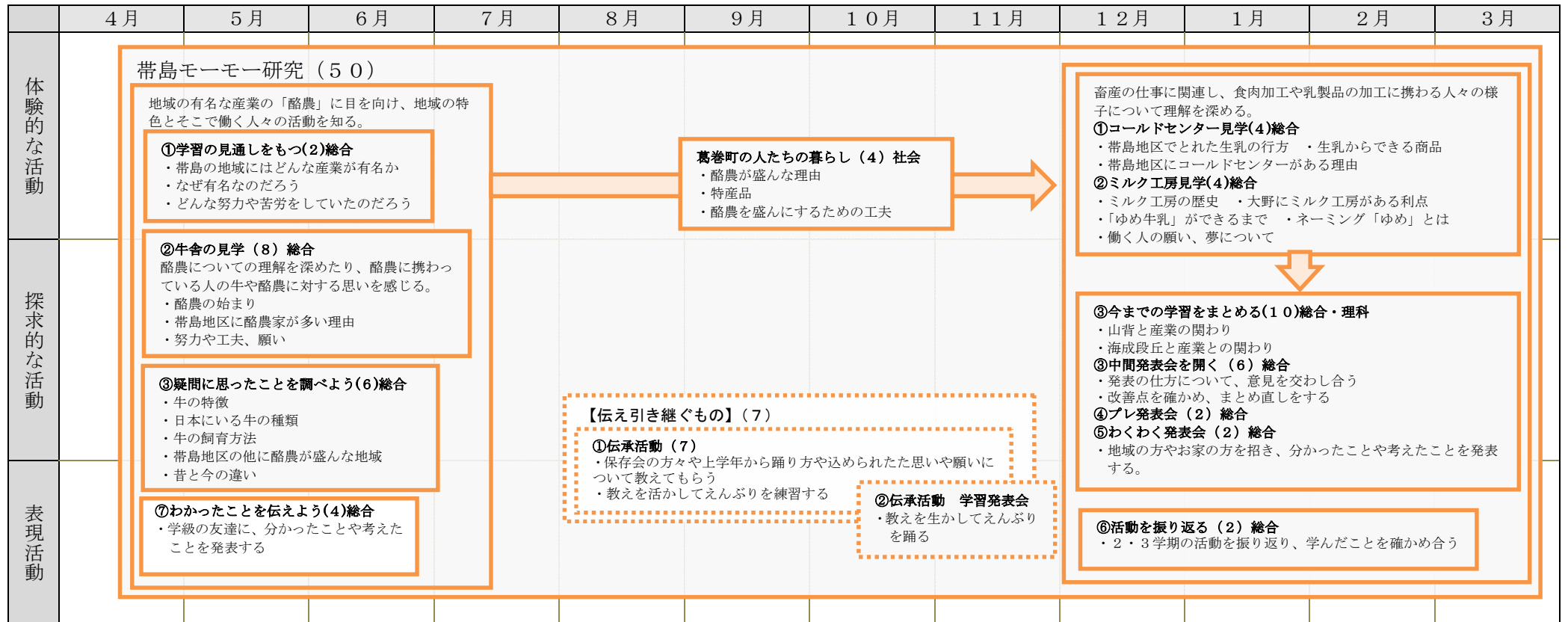
○関連 国語・社会科・理科

○目標

協力機関等

- ・地域の方を講師として招く
- ・おおのミルク工房
- ・JA全農いわて大野コールドセンター

	①学習方法に関わるもの	②自分自身に関わるもの	③他者や社会との関わるもの
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で調べることができる課題を見つけることができる。 ○いろいろな学び方を体験し、資料を集めることができる。 ○自分の考えや感想、努力したことをまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の仕方でも追及し、最後まで工夫してやり遂げることができる。 ○自分のよさや進歩を見つけ、他の人とのかかわりで考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな考え方にふれることができる。 ○友だちと協力して調べたり、話し合ったり、まとめたりすることができる。



5年生「気候と海の影響等、自然環境と産業（農業）との関係を探る海洋教育の推進」

米作りがさかんな地域と帯島の稲作を比べ、稲作には適さない自然環境のもと、稲作に従事している帯島の方々の仕事の様子や思いや願いを知り、帯島のこれからの農業について考えをもてるようにするとともに、自分が住む地域への関心を高め、自分の将来についての意見や考えをもてるようにする。

【実践のねらい】

- 時数 5～2月 70時間（総合的な学習の時間）
- 関連 国語・社会科・理科・道徳
- 目標

協力機関等
・地域の方を講師として招く

	①学習方法に関わるもの	②自分自身に関わるもの	③他者や社会との関わるもの
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだことや自分の生活から課題をみつけることができる。 ○課題に応じた情報を収集して活用することができる。 ○追究した過程や結果をまとめ、自分の考えをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画を修正しながら追究し、さらに深く広く追究することができる。 ○自分の将来について意見や考えをもち、これからの生き方について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異なる意見や他者の考えを受け入れることができる。 ○地域の人や専門家に話を聞き、関わりを考えて生活することができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
探求的な活動	お米からのおくりもの(30)			④米作りがさかんな地域の様子を調べよう(3) 総合 ○社会の学習をもとに、調べ学習をとおしてお米作りの関心や知識を高める。 ・米の産地や種類 ・米づくりがさかんな地域の自然環境 ・米づくりの仕事の手順 ・稲の成長に適した環境 ・米つくりはどのように変わってきたか。 ・米の生産量、消費量の変化 ・農家の新しい取り組み			⑦米の収穫について知ろう(3) 総合 ○稲刈りはどのようにして行われるのか調べる。 ・稲刈りで使われる道具 ・稲刈りした後の米はどうするのか。(脱穀、精米など 出荷について) ○稲作には適さない環境の帯島で、稲作を行っている工夫について追究する。 ・気候条件 品種改良 高張さんの思い					
	①4年生までの学習を振り返ろう(2) 総合 ○帯島の特徴的な「人・もの・こと」は何か ・帯島の名人調査隊 ・野菜博士になろう ・帯島モーモー研究 ・キャップハンディ体験 ○帯島では「米作り」も行われているのか。 ・学校前の田んぼで稲作りを行っている高張さんを尋ねる。 自然とふれあおう(26) 総合・理科・社会・道徳 ○グリーンスクールに向けての活動を通して自然を守るためにできることを考える。 ・自然のすばらしさを感じる・帯島との違いを見つけ、それぞれの良さに気づく。			⑤田植え後の稲の様子を観察しよう。(2) 総合 ○田植えの後、稲の様子はどのように変わったか。 ・稲の長さ ・穂の様子 ・稲の色の変化 ・田んぼの様子(水など) ○田植え後にはどのような仕事があるか、高張さんにインタビューする。			⑧稲刈りにチャレンジしよう(2) 総合 ○稲刈り行い、作業の苦労やたいへんさを体験するとともに収穫の喜びを味わう。 ○収穫した米をいただく。			②伝承活動 どんと祭 ・教えを生かしてえんぶりを踊る ・地域の方の願い・思いを感じる		
	②お米作りを体験しよう(5) 総合 ○田植えの前にはどんな準備や作業があるのか。 ・田起こし 種選び 種まき 代かき等 ○高張さんを尋ね、米作り田植えを行う前の苗の様子を調べる。 ・種から発芽する様子を知る。 ・育苗の様子を知る。田植え前の苗を観察する。 ○田植えにチャレンジして、米作りの苦労や大変さを体験する。			⑥自己課題の探求(8) 総合 ○米について、自分が興味のある課題を選び、課題を見出す。 ・自分のテーマについて探究活動を行い、ポートフォリオをつくる。(インターネットや図書室の本、これまでのワークシート、インタビューなどを活用) ○特徴のある自然環境のため、稲作には適さない帯島で、稲作を行っている高張さんの努力や工夫、米作りにかける思いや願いを調べる。 ・気候条件 稲の品種改良 稲作を始めた頃と今との比較 稲作への高張さんの思いや願い ○お米からのおくりものとは何か、自分の考えをまとめる。(わくわく発表会に向けて)			③伝承活動 学習発表会 ・教えを生かしてえんぶりを踊る			③「お米からのおくりもの」について「わくわく発表会」で発表しよう(2) 総合 ・各自のテーマをもとにグループを決め、発表の構成や内容を定める。 ・グループごとに発表練習を行う。 ・わくわく発表会で、保護者や6年生に発表し、感想を聞く。		
体験的な活動	③「お米新聞」を作成しよう。(3) 総合 ○実際の田植え体験、インターネットで入手した資料、図書室の本などから題材を集め、個人新聞にまとめる。 ・田植えの方法や様子 ・田植えの感想 ・田植えや米について自分が紹介したいこと			③「お米新聞」を作成しよう。(3) 総合 ○実際の田植え体験、インターネットで入手した資料、図書室の本などから題材を集め、個人新聞にまとめる。 ・田植えの方法や様子 ・田植えの感想 ・田植えや米について自分が紹介したいこと			①えんぶりを引き継ごう。(4) 総合 ○地域の方のえんぶりに対する思いを知り、自分たちもえんぶりの後継者としての意識を高める。 ・地域の方の思い 歴史 後継者について			②えんぶりを披露する。(10) 総合 ○どんと祭や6年生を送る会での引継ぎに向けて、えんぶりの練習を行う。 ・どんと祭での披露		
表現活動	③「お米新聞」を作成しよう。(3) 総合 ○実際の田植え体験、インターネットで入手した資料、図書室の本などから題材を集め、個人新聞にまとめる。 ・田植えの方法や様子 ・田植えの感想 ・田植えや米について自分が紹介したいこと			③「お米新聞」を作成しよう。(3) 総合 ○実際の田植え体験、インターネットで入手した資料、図書室の本などから題材を集め、個人新聞にまとめる。 ・田植えの方法や様子 ・田植えの感想 ・田植えや米について自分が紹介したいこと			③「お米新聞」を作成しよう。(3) 総合 ○実際の田植え体験、インターネットで入手した資料、図書室の本などから題材を集め、個人新聞にまとめる。 ・田植えの方法や様子 ・田植えの感想 ・田植えや米について自分が紹介したいこと			③「お米新聞」を作成しよう。(3) 総合 ○実際の田植え体験、インターネットで入手した資料、図書室の本などから題材を集め、個人新聞にまとめる。 ・田植えの方法や様子 ・田植えの感想 ・田植えや米について自分が紹介したいこと		

6年生「海と山との違い、先人が持つ地域産業への思い・願いを探る海洋教育の推進」

【実践のねらい】

これまでの3年間の学びを振り返りながら、地域の一員として共に生きる人々の生き方や考え方を知ることを通して、地域の中で人とかかわりながら自分らしく生きることの大切さやすばらしさに気付き、自分らしさを踏まえた「これからの自分」の生き方を考え、実践していこうとする力を育てる。

- 時数 4～2月 70時間（総合的な学習の時間）
- 関連 国語・社会科・理科
- 目標

協力機関等
・地域の方を講師として招く

	①学習方法に関わるもの	②自分自身に関わるもの	③他者や社会との関わるもの
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだことや自分の生活から課題を見つけることができる。 ○課題に応じた情報を収集して活用することができる。 ○追究した過程や結果をまとめ、自分の考えをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画を修正しながら追究し、さらに深く広く追及することができる。 ○自分の将来について意見や考えをもち、これからの生き方について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異なる意見や他者の考えを受け入れることができる。 ○地域の人や専門家に話を聞き、関わりを考えて生活することができる。

